

第5回「海上保安の日」俳句コンテスト各賞発表

海上保安庁は昭和23年5月の創設以来、永年にわたり広大な海の平和と安全を守り続けています。海上保安庁の創設に際し、初代長官である大久保武雄氏により庁舎屋上に海上保安庁の旗「庁旗」が初めて掲揚されたのが5月12日でした。この5月12日が「海上保安の日」と定められており、この日を記念して、大久保武雄氏が俳人（俳号；橙青（とうせい））であったことにちなみ、昨年につき、第5回「海上保安の日」俳句コンテストを開催いたしました。

応募部門を一般の部と高校生以下の部の二部門に分け、応募期間を令和5年11月20日（月）～令和6年2月20日（火）までの3か月間として募集した結果、一般の部1,829句、高校生以下の部1,570句、総数3,399句の投句がありました。

これを10名の選者が選考し、各部門それぞれ、大賞（橙青賞、海上保安庁長官賞、海上保安協会会長賞）、特選、及び佳作の作品が決定されましたので、お知らせします。

< 入賞数 >

- 一般の部
 - 大賞 3句（橙青賞、海上保安庁長官賞、海上保安協会会長賞の各1句）
 - 特選 7句
 - 佳作 54句
- 高校生以下の部
 - 大賞 3句（橙青賞、海上保安庁長官賞、海上保安協会会長賞の各1句）
 - 特選 6句
 - 佳作 52句

< 選者 >

大久保 白村	審査委員長、(公社)日本伝統俳句協会顧問
岩岡 中正	(公社)日本伝統俳句協会会長
小島 健	(公社)俳人協会副会長
中村 和弘	(一社)現代俳句協会会長
大高 霧海	国際俳句交流協会会長
富士 真奈美	俳人、俳優
夏井 いつき	俳人
岸 ユキ	海上保安友の会理事、俳優
稲畑 廣太郎	(公財)海上保安協会評議員、(公社)日本伝統俳句協会副会長
佐藤 雄二	元海上保安庁長官

《 大 賞 》

- 橙青賞（初代海上保安庁長官 大久保武雄 俳号）

貴婦人のごとき灯台夏の潮 佐賀 萩原 豊彦

選評（岩岡 中正）

紺碧の夏潮にすくと立つ真白の灯台を、「貴婦人」と詠んだ。その美しさを讃えるとともに、日夜海を守る灯台への深い敬意がこめられた一句である。

選（小島 健、富士 眞奈美、岸 ユキ、稲畑 廣太郎）

- 海上保安庁長官賞

制服を脱ぐと父なり海保の日 熊本 槻木 俊彦

選評（中村 和弘）

制服は、その団体を象徴する服装。駅員には駅員の、警察官には警察官とすぐ分る集団的なシンボル。海上保安の日、父が帰宅しその制服を脱いだとき、自分たち家族の父、と実感した。一見ささやかなことに思えるが、なにか大事なことが含まれている。

選（大高 霧海、岸 ユキ）

- 海上保安協会会長賞

大鍋に海鮮カレー海保の日 東京 柴崎 英子

選評（小島 健）

いいですねえ、この明るく楽しい作品！「海鮮カレー」がいかにも「海保の日」にぴったりです。「大鍋に」もまた抜群の措辞で、大人数の活力を感じますね。この一句に乾杯！集まった人たちは海鮮カレーに大満足！かような満足を知る人は心も豊かになります。まさに「足るを知る者は富む」（老子）。

選（富士 眞奈美）

《 特 選 》 7 句（各選者の特選句等：順不同）

① 特選

海保機の殉難悼む能登の雪 新潟 大淵 航

選評（岸 ヌキ）

まさに記憶に新しいでき事で「能登の雪」という言葉を入れた事でいっそう思いを深くさせられました。

選（富士 眞奈美）

② 特選

海から行く被災の能登へ海保の日 山口 小畑 律子

選評（佐藤 雄二）

令和六年元旦、能登半島で M 七.六の大地震が発生し、周辺の地域を含め甚大な被害をもたらした。公的機関による救急救命の後、復旧に向けて震災地で最初に困るのが水である。破壊された道路を使用しての水の輸送は困難を極める。この句は、巡視船で水や支援物資を海から能登の港へ運んだ海保の緊急支援活動をうまく詠んでいる。

選（中村 和弘）

③ 特選

明けそめし海あをあをと海保の日 新潟 美濃部 紘三

選評（富士 眞奈美）

なんと純心なお方でしょう。毎日毎日見ている海ですが日々その表情は変わります。先日も台湾で大きな地震がありました。海保に関する御家族は、海に祈らずにはいられます、一日の平穏を。今日は大丈夫。あおあとお美しくおだやかな海よ。

④ 特選

風薫る甲板に立つ海保の日 兵庫 今北 渚

選評（稲畑 廣太郎）

海保の日に縁あって甲板に立っている作者である。公開されている巡視船を想像するが、そこには夏の心地よい薫風が吹いている。海保の日の清々しい心持が季節を通して感じることが出来る。

⑤ 特選

能登半島安寧祈る海保の日 新潟 川島 芳夫

選評 (大高 霧海)

元旦に能登半島地震が発生。能登半島の被害については死傷者多数、家屋損傷も甚大。かの輪島の朝市も全滅。農業にも多大の損害。避難生活の正常化も徐々に回復。掲句はこの能登半島の被災について海保の日に復興、安寧の日の早からんことを、ひたすら祈念する心があふれている。

⑥ 特選

みちのくの海へ敬礼海保の日 島根 朽谷 治

選評 (夏井 いつき)

日本の海の平和と安全を守り続けている海上保安庁。治安や警備、救助や災害対策などの様々な任務に、日々邁進されている海上保安官の美しくも緊張感に満ちた「海保の日」の「敬礼」が目に見え、目に浮かびました。「みちのくの海へ敬礼」の措辞には、海で多くの命を失った東日本大震災への鎮魂の想いを感じ取らずにはられません。

⑦ 特選

海保の日使い込まれし双眼鏡 富山 長峰 くにこ

選 (岩岡 中正、富士 真奈美、夏井 いつき、佐藤 雄二)

《 佳作 》 54 句

颯爽と女性船長海保の日	佐賀	萩原 豊彦
今は昔灯台守の葱畑	大阪	今井 文雄
海保の日かもめが磨く空のいろ	埼玉	伊藤 柳香
海保の日島に無数の海難碑	東京	曾根 新五郎
海保の日船舶通話宇宙飛ぶ	富山	長峰 くにこ
島国の海は国境海保の日	宮城	奥山 雅治
退官の父に花束海保の日	北海道	赤繁 忠弘
海の香を放つ制服海保の日	東京	曾根 新五郎
歓声はビーチバレーか海保の日	埼玉	中野 弘樹
父も吾も灯台守や海保の日	大分	小野 智輔

風薫る雄雄し庁旗の気高さよ	東京	鮎川 郁夫
いさかひもさいはひもあり海保の日	群馬	遠藤 幸子
海猫が庁旗に集う海保の日	埼玉	塩谷 彰太
海守る薫風を連れ海保の日	神奈川	奥原 邦敏
海保の日新たに誓う平和の日	千葉	山野井 英久
海保の日航海日誌守り継ぐ	新潟	美濃部 紘三
海保の日庁旗国旗に一礼す	東京	田中 正博
海保の日波おだやかにおだやかに	福岡	紙田 幻草
海保の日胸に矜持の金釦	愛媛	菅 伸明
帰港して笑顔が集ふ海保の日	北海道	宮腰 鹿山
暗闇を照らし続けて海保の日	東京	船津 遼大
航海図直線ばかり海保の日	東京	尾形 道夫
この星の海は円やか海保の日	京都	田端 敏弘
五月晴いざ灯台を見にゆかむ	福井	倉谷 重瑠
戦なき海の守りを海保の日	神奈川	三枝 清司
一枚の空を称へて海保の日	埼玉	伊藤 柳香
夏の波かもめと並走巡視船	岩手	滝川 光雄
日本（にっぽん）が世界に誇る海保の日	兵庫	野崎 眞奈美
日の丸を波が揺らして海保の日	北海道	安田 健治
船を漕げ今日は海上保安の日	東京	松岡 弘
ふるさとに古き灯台海保の日	大阪	今井 文雄
異国語の停船命令海保の日	埼玉	奈良 勇希弥
雲の峰S字あざやか巡視船	静岡	高山 佳己
海国の地図は真青や海保の日	大阪	濱田 昭
海守る背がたくましき海保の日	福岡	手島 由貴
海保の日隠岐の仔馬に風優し	島根	寺津 豪佐
海保の日音楽隊という任務	山梨	薬袋 太一
海保の日悔い残る背を風が押す	福島	安藤 和繁
海保の日海の上にも国ざかひ	東京	羽住 博之
海保の日海は海語で語りだす	宮城	中澤 敏泰
海保の日若き力に夢託す	大阪	渡辺 秀夫
海保の日渚をかける子の笑顔	愛知	福代 法子
海保の日浜辺であそぶ家族連れ	富山	角谷 禎成
敬礼を真似る少年海保の日	神奈川	久保田 聡
甲板で仰ぐ星空海保の日	千葉	須賀 毅
仕事場はスマホ圏外海保の日	東京	秋本 茂雄
深海という異界あり海保の日	山形	安達 喜代美

青き地球宇宙に浮かぶ海保の日	熊本	貴田 雄介
絶え間なき船の鼓動よ海保の日	高知	野中 泰佑
天高し紺の庁旗に羅針盤	兵庫	宮澤 省子
島渡るアサギマダラよ海保の日	静岡	高山 佳己
東海の小島の磯も海保の日	東京	野上 卓
波立てず平和を祈る海保の日	三重	尾家 徳次朗
橙青の想ひ尊し海保の日	兵庫	榎野 実

◇ 高校生以下の部 ◇

《 大 賞 》

○ 橙青賞（初代海上保安庁長官 大久保武雄 俳号）

朝焼けに灯り溶け込む巡視船 徳島 宮内 穂夏

選評（小島 健）

朝焼けは夕焼けの親類で、じつに荘厳な感じがします。そこに朝に残った灯りが溶け込むというのですから、詩情に満ちています。おお、何とこの感覚的な詩情よ！「巡視船」の情況設定がまたいいですね。それは巡視船で働く人々への感謝と賛歌！人と自然との融合に拍手！

選評（中村 和弘）

巡視船の灯火が朝焼けの色の中に溶け込み一体化したように見えた。おそらく一夜巡視船は活動し朝を迎えたのだろう。巡視船の活動を短い俳句に確りと把握し表現した。さらに言えばこの巡視船は、空と海に一体化したような趣がある。

選（富士 眞奈美、夏井 いつき）

○ 海上保安庁長官賞

帰航する巡視船に大夕焼 愛知 河合 祐貴子

選評（大高 霧海）

保安の日、日本領海の巡視を終え、巡視船が帰航の途に就いた。大夕焼の西の空を背にして、進行する巡視船は赤く彩られている。大夕焼が海保の日の巡視を終えて帰路に就いた巡視船を喝采しているかのようなようである。

選（小島 健、中村 和弘）

○ 海上保安協会会長賞

被災地の霞に巡視船光る 東京 池浦 俊暢

選評（稲畑 廣太郎）

能登半島でおこった地震を思いうかべます。沖は霞んでいて最初はよく見えなかったところに巡視船が助けにやってきたのが見えたのでしょう。「光り」という言葉が、希望の光のように輝いて見えます。

選（岩岡 中正、小島 健）

《 特 選 》 6 句（各選者の特選句等：順不同）

① 特選

海風にカモメ抗う海保の日 徳島 眞鍋 幸子

選評（夏井 いつき）

「海保の日」に取り合わされているのは、「海風にカモメ抗う」です。風に向かって滑空するカモメに、自然に抗いながら生きる姿を象徴的に感じ取ったのでしょうか。海の強さも優しさも知る「カモメ」の立ち向かう姿は、「海保の日」だからこそ、自然や国際的脅威に立ち向かう海上保安官の姿に重なったのかもしれない。

選（中村 和弘）

② 特選

海風になびく横顔海保の日 徳島 森岡 奨

選評（富士 眞奈美）

きりっと仕事を果たしにいらっしゃる父上の横顔を見守る少年でしょうか。どうぞ御無事で、という気持ちが溢れています。

選（小島 健）

③ 特選

海保の日レノンの LP 聴きにけり 愛知 河合 祐貴子

選評（岸 ユキ）

世界平和を願った唄をうたい続けたジョンレノンの LP を海保の日に聴いている所に奥深さを思いました。

選（小島 健）

④ 特選

巡視船北へ南へ海保の日 徳島 河野 将也

選評 (佐藤 雄二)

海に囲まれた島国日本。尖閣諸島などが問題となっているだけではなく、北朝鮮による日本海へのミサイル発射も度々起きている。日々の事件事故に加えて、全国各地で起きる災害への対応も欠かせない。これらの全てに現場で対応するのが巡視船である。この句は東奔西走する巡視船の動きに焦点を当てたもので、海保の現状をしっかりと捉えている。

選 (大高 霧海)

⑤ 特選

海保の日青い地球を守りたい 徳島 櫻間 三由希

選評 (岩岡 中正)

海の安全や平和を含めた地球全体のいのちを守りたいという、スケールの大きな一句。「青い地球」の一語がいかにも若者らしく、新鮮。

⑥ 特選

海保の日群青の海永遠に 鹿児島 坂下 茉優

選 (岩岡 中正、大高 霧海、稲畑 廣太郎)

《 佳作 》 52 句

海を知り地球を知る日海保の日	鹿児島	大小田 雄斗
しおかぜでネクタイゆるる海保の日	福岡	中野 真希
スラックスのセンタープレス海保の日	群馬	奥田 羊歩
夏風に未来をのせる海保の日	徳島	土井 杏実
保安の日暑い日ざしをはねかえす	京都	井上 幌大
ほしすなにへいわをいのるかいほの日	鹿児島	郡山 日和
海保の日ジュズカケバトの赤き足	群馬	奥田 羊歩
防人の守りし海に海保の日	北海道	落合 波菩
争いなき静かな海へ海保の日	徳島	坂東 千綾
海の中魚も安全海保の日	福岡	小林 征來
海守り海に守られ「海保の日」	鹿児島	山角 結南
海守る海上保安の一日だ	鹿児島	茶園 蒼真
炎天下休みなくして海保の日	徳島	阿部 瑞己
海保の日青く輝く波の音	鹿児島	赤崎 美心

海保の日あらためて気づく海への愛	京都	村上 鳳大
海保の日海からの声耳すます	鹿児島	寺師 湊
海保の日海も毎日歩み行く	京都	河合 武
海保の日海を守りに行ってきます	京都	西村 あづき
海保の日輝く海にうかぶ船	京都	大久保 有香
海保の日きれいな海と海の声	京都	佐藤 慶
海保の日魚ピチピチ生きている	福岡	山岡 玲和
海保の日静かな波の音を聞く	京都	山根 千寛
海保の日水平線の光る朝	京都	横山 花梨
海保の日涼しい風と青い空	京都	岩崎 翔
海保の日外の空気をすうクジラ	福岡	佐藤 柚紀
海保の日庁旗輝く夏の空	徳島	廣岡 夏音
海保の日尊き海を守る夏	京都	林 こはる
海保の日長声一発胸躍る	鹿児島	武元 夏希
海保の日波がささやくありがとう	鹿児島	小村 凜
海保の日波間の鳥が点呼する	茨城	石井 彩音
海保の日美しい日本を次世代に	北海道	落合 海
海保の日日本の海は任したぞ	京都	村田 琥太郎
海保の日旗なびかせる平和の風	東京	松本 真
海保の日光り輝く魚たち	鹿児島	坂下 茉優
海保の日平和と海のまぶしさよ	鹿児島	福山 由菜
この海で世界とつながる海保の日	北海道	落合 航大
しきしまが見守る日本海保の日	福岡	井川 綾乃
島国を守る船だぞ海保の日	福岡	田邊 賢斗
救うんだ強い心よ海保の日	埼玉	鈴木 敦士
潜水士ぼくは夢みる海保の日	宮城	阿部 英明
台風にも負けない心海保の日	徳島	高橋 賢一朗
太平の世をフェリー行く海保の日	愛知	外山 叶実
たてぶえもよこぶえもいる海保の日	埼玉	大室 史華
灯台が夜風を照らす海保の日	徳島	阿部 雪乃
日本の長き平和や海保の日	徳島	繁本 碧樹
はるかなる島々のぞむ海保の日	徳島	田村 文音
プカプカとクラゲがおよぐ海保の日	福岡	中島 鳳兜
平和とはまるで夕辺の砂浜海保の日	京都	井後 なつか
ヨーソロー響く掛け声夏の海	鹿児島	湯田平 結衣
海保の日未来を照らす巡視の灯	徳島	高岡 もみじ
海保の日遠くの船を眺めゆく	福島	長谷川 慶佑
和の国の平和を伝える海保の日	北海道	落合 海

【本件問合せ先】

公益財団法人海上保安協会「海上保安の日」俳句コンテスト係

〒104-0033 東京都中央区新川 1-26-9 新川イワデビル 7F

TEL : 03-3297-7589 FAX : 03-3297-7590